

大陸にわたる人々

7/10

- 日本が中国(唐)を目指して、遣唐使とははれた使節団の人々がくり返し海をわたった。
- 途中で難破したり、病気したりすることがあった。遣唐使の中には、旅の途中や遠く異国の地で命を落とす人も大勢いた。
- 遣唐使は、中国の進んだ政治のしくみや大陸の文化を学び、法律や歴史についての書物や、仏教の經典などを持ち帰った。

聖徳太子の理想

- 聖徳太子は、天皇をより高い地位にたて、蘇我氏と天皇中心の国づくりに目ざし、政治の改革を進めた。
- 聖徳太子は、冠位十二階をつくり、十七条の憲法を定めた。
- 中国(隋)との国交を開き、小野妹子を遣隋使として送った。

大化の改新と新しい政治のしくみ

- 聖徳太子がなくなった後、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒し、大化の改新を始めた。
- 農民が国に納める課税のしくみが整えられた。また、藤原京が奈良に築かれた。
- 7世紀の初め、中国(唐)に学んだ律令という法律がはられ、新しい政治のしくみが定まった。
- 政治は、天皇を中心に、天皇の一族や有力な豪族などの貴族による、と進められた。

大切な言葉や人物名を、單元ごとにまとめています。
色も使っていて大変見やすいです。

聖武天皇と大仏づくり

- 8世紀の中ごろ、伝染病や害虫が広がったり、地方では貴族の反乱が起り、世の中が混乱した。そして、聖武天皇は、仏教の力を借りて人々の不安をしずめ、国を守ろうと考えた。
- 全国に国分寺を建てることを命じ、都には国分寺の中心となる大寺を建て、大仏をつくることを決めた。
- 大仏づくりには、渡来人の子孫である行基も協力した。

海をこえた人々の功

- 鑑真は、朝廷の願いに応じ日本にわたることを決意した。
- 6度めの航海によって日本にたどり着き、唐招提寺を開き、仏教の発展に大きな役割を果たした。

藤原道長と貴族の暮らし

- 9世紀の末、都を奈良から京都へ移され、994年に平安京とよばれる都がつけられた。
- 都の貴族たちは、朝廷の役所へ仕事をし、寝殿造に住み、園芸やけしき、和歌などもよくわかっていて、また、季節ごとにさまざまな行事や儀式を行なった。

日本独自の文化が生まれた

- 風土や生活に合った日本独自の文化を、国風文化とよんでいる。
- 平仮名や片仮名がつくられ、日本古来の言葉や感情を自由に表現できるようになった。
- 紫式部の『源氏物語』や清少納言の『枕草子』は、日本を代表するものとして高い評価を得た。



6年 4組

名前